

名取市立増田中学生が職場見学

大豊建設東北支店（大隅健一取締役専務執行役員支店長）は9日、名取市立増田中学校（佐藤俊隆校長）の依頼を受け、生徒の職場見学に対応した。東北支店内各部署と、塩釜市が発注した牛生雨水ポンプ場（土木）築造工事（大豊建設・鈴木工務店）現場を訪ねた同校の生徒に対して、社員が建設産業や工事の仕組みを説明した。写真。

増田中学校では、第2学年のカリキュラムとして、さまざまな職業を知るための見学や職場体験を展開している。大豊建設を見学したのは5人。東北支店では「大豊建設はどんな工事をしているのか」「仕事を通して楽しいこと、つらいことはどんなときに感じるか」「東北支店は建物をいくつ建設したか」などの取

大豊建設東北支店

雨水ポンプ場工事現場を紹介



材を行った。支店側は「東北新幹線や台湾高速鉄道、トキ順化施設などを手掛けた」「工事が完成し、顧客から感謝されるのがうれしい。失敗して関係者に迷惑をかけたときが一番つらい」「支店の実績は郡山法務庁舎など65棟」と説明した。

雨水ポンプ場の工事現場では、吉田聡所長が工事の内容を解説し、現場を案内した。吉田所長は「この地域は、土地の高低差によって大雨が降ると雨水が流入して氾濫を起こす。浸水防除として、貯留槽にたまった雨水をポンプで河川にくみ出すため、地下10メートルまで土地を掘り下げ、貯留槽やポンプの土台を造っている」と説明。生徒たちは「工事現場に入るのは初めて」「職場体験にも来てみたい」と目を輝かせた。見学の内容は学校に持ち帰り、新聞製作などで発表するという。

ポンプ場現場は、躯体掘削中に震災で津波を受け水没したが、地中連続壁や場内への影響は無かった。吉田所長は「震災の1カ月前に、現場で津波想定避難訓練なども行っていた。震災時にはけが人も出さずに済んだ。建設産業は安全や品質という、人にとって大事なものを扱っていることが、生徒たちに伝わればなにより」と話した。